若き戦士 NO.26 日大社会主義学生同盟

3月沖縄・防衛庁設庁派ケン・自衛隊300人派兵実力阻止へ向け、1・18県民大会[illegible]に結集し暴力斗争を組織せよ!!

全ての日大生諸君!昨年11月に行なわれた沖縄国政参加選挙=3月に行なわれんとしている防衛庁設庁派ケンに伴う自衛隊員300人派兵は日帝の側からする、52年以降の土地強制接収―58年ドル切替以降の本土資本の進出に伴う農業再編について戦后三度目の階層分解の過程である。しかもこの階層分解は質的に異なったものとしてである。第一にこの階層分解=社会再編は日帝ヘゲモニーの下になされ、これは日本全土で行なわれている再編過程の構成要素をなすものであり、このことは戦后つくられた「沖縄」の枠の解体の直接的与件である。第二に階層分解の主体が前の二つは農民層であったのに対し、今回の場合には賃金労働者層であること。沖縄においてはたしかに農業部門の就業人数は他を圧して多いのだが、相当数が60年前后の景気の中で農業プロレタリアートに転化している。従って農民層分解は副次的なものとなり、同時に第二次産業との関連ではるかに目的意識的なものとなるだろう。この72年をメルクマールとする分解は単に一県的なものではなくして、全土的、アジアを射程にいれた国家的規模で進行しているのであり「日本の中の東南アジア」なる方向はあきらかである。第三に基地合理化=軍事再編が　反革命、侵略体系の総体的危機の中で進行していることである。「かつてない複合的総合基地」が戦斗体制の中にあることによって、今次階層分解過程はその政治性においてあらわれにしなければならなくなっている。　つまり「施政権」の転換を軸として、「政治的」主体性のもとに展開されることにより、国家・憲法幻想総体を色濃くあらわしたものだったのである。この本質を見るならば、我々の斗いは、憲法―国家幻想との闘いの論理においてしか本土―沖縄の斗う連帯はありえない。67年10・8斗争以降の国際主義の資質を根源的に問うものとして、72年返還=第三次琉球処分は存在しているのだ。

コザの反乱をみよ!社民の反乱のエネルギーの国会=ションベン議員の選出=への流し込みからのはみだし部分へ沖縄においては、よりリアルな問題としてあるだけなのだが、全人民的な問題の提出と解決への方向を人民の前に提出したのだ。この反乱に政府ブルジョアジーは一切なすすべをなくし、実弾演習実力阻止斗争のまさに生命をかけた勝利と、毒ガス移転阻止斗争の高揚に、コザ反乱に、騒乱罪をもって最后のあがきをなして来、社民はまさにこのドウカツに屈したのだ。

沖縄の問題を左翼ロマンティシズムで語るようなことは我々はなさないし、アジア革命を語ることで沖縄併合の問題を語らずして、アジア革命は政治性格において他人へのもたれかかりにしかならない。　日米帝国主義の矛盾によって、繊維交渉と沖縄はアジア再編という規模で結ばれ、3月防衛庁設庁の派ケンは、アジア進略へ大きく一歩あゆみでたことにほかならない。我々にせまられているのは、大衆反乱による実力阻止斗争を昨秋斗争の質をもってやり抜くことにかかっているのだ。

反乱の暴力を組織し、革命の暴力に転化せよ!!